

平和体験学習から感じたこと

引率者 井須 哲朗

(トマム小学校教諭)

今年オバマ大統領が広島で演説を行いました。そのような年に広島で平和体験学習に参加する機会を与えてくれた占冠村と教育を語る住民会議に感謝したいと思います。

日本は第二次世界大戦において世界で唯一の被爆国となりました。広島島の語りべの方のお話は圧倒的な説得力をもって語られました。その時に感じたことはやはり、戦争の悲惨さから目をそむけてはいけないということでした。

日本という国に誇りを持つことはとても大切なことだと思います。自分の育ってきた故郷を大切に思う気持ちには間違いがありません。だからこそ、戦争での加害と被害をしつかりと見つめ直し、平和であることの意味をもう一度先の大戦から考え直す必要があると、この学習を通して考えました。国の正義でたくさんの人々の命を奪って良いのか、それは絶対に許されません。私は日本が戦争のない国になることが誇りになると感じました。原爆による広島島の犠牲者、そして、全世界の犠牲者から学び二度と戦争のない国づくりをすること、そしてそれを世界に広げていくことを考えていくことが日本国民としての責務なのだと思います。

そのためには国と国との折り合いを模索していくこと、武力に頼らずに

平和を実現するためのプロセスを作っていくことを一人ひとりが考えていくことが必要です。

8月6日は広島市民に根付いた平和を考える日と感じました。灯籠流しには多くの市民が参加しています。近くのガイドさんが「今日は広島市民の100%の命日だから」と話していました。その言葉が残っています。日々忙しくて平和という漠然としたことをつい忘れてしまう日常ですが、平和体験学習を通してこれからも平和についてアンテナを高くして考えていきたいと思っています。

広島平和体験学習に参加して

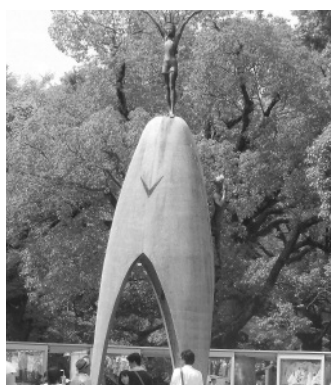
引率者 合田 幸

(占冠村役場)

このたび引率として広島平和体験学習に参加する機会をいただいたことに感謝申し上げます。連日予想最高気温35℃の中、参加者全員が体調も崩さず、元気に過ごせたことに安堵し、生徒と一緒に貴重な体験ができ、楽しく学べたことに喜びを感じております。

私自身広島を訪れたのは3回目でしたが、平和記念式典への参列と、被爆者から直接お話を聞いたこと、とうろう流しは初めてのことでした。式典やとうろう流しは私の想像以上に一般参加の方が多く、広島市民全体でこの日を大切にしている気持ちを感じました。

も広島へ中学生を派遣し、現地で学んだことを報告することで村民へ思いをつないでいることはすばらしいことと強く感じました。また、多くの方が平和について思いをはせる時間を積み重ねることによって平和な世界へつながることを信じ、日頃から平和について意識して過ごしていきたいと思っています。



被爆者からのお話は、広島生まれの当時18歳の国鉄乗務員で、原爆投下当日の8月6日は下関から広島へ戻る勤務であつたため、直接被爆を免れた方からのものでした。広島島の惨事を目の当たりにしたのは、広島駅から東へ3kmほど離れた自宅に戻るときで、広島島の街が一面焼け野原となり、自宅への目印は全くなく、見えるはずのない3km以上離れている瀬戸内海が見えたことが印象に残っていると話されました。時代的にお国のために戦争に行き、20歳以降の人生など考えられないような教育を受けていたので、8月15日の天皇陛下のお言葉や、「日本が負けた」というお客さんの話はしばらく信じることができなかったと話されました。自身には一般教養がないと気づき、仕事を続けながら大学へ通ったこと、破壊活動防止法案阻止のために学生大会を開催したこと、広島に原爆孤児が多かったことから子どもを守る会に参加したり、今月下旬には自分史を発行したりと、50歳の時に胃ガンを発症し胃を2/3摘出したとは思えないくらい、今も意欲的に活動している方でした。

今後叶えたいこととして、「原爆の絵」を世界各国の要人に渡したいという強い思いを持っておられ、理由は被爆した者が目の当たりにしたままが描かれていて、言葉ではなかなか伝わらない現状を知ってほしいからとおっしゃっていました。

今回の参加で、占冠村において31年

第41回ふるさと祭り

村一大イベントふるさと祭り
炎天下の中、村内外から約6,000人の
来場者が訪れ、ゲームや村グルメ
など、お祭りを楽しみました。

📷のマークがついている記事
は、古冠村HPの「動くしむかつぶ」で
見ることができます。

📷 8.6～7



トマムの夏祭り 7.31～8.1

トマム町内会による苦鵲神社祭・夏祭り
宵祭でのバンド演奏や花火、本祭りでの
元気な子どもみこしなどトマムの夏の
ひと時を楽しみました。

